

令和4年8月31日

県政への反映状況（令和3年度開催 知事と一緒に生き活きトーク）

第1回：テーマ「おかやま元気！集落～多様な主体が支え合う仕組みづくり～」(R3. 8. 2)

- 1 中山間地域での暮らしを継続可能とするためには、県外に住む遠くの人ではなく、県内都市部の人に、いかに中山間地域の現状を知ってもらい、今後のあり方について考えてもらえるかが重要だと考える。
- 地域づくりに関心のある県内の大学生や社会人等を対象とした中山間地域の担い手育成セミナーの中で行うフィールドワーク（実際に中山間地域を訪問して、地域の人と交流・情報収集し、地域課題解決策の検討等を行う）を、令和4年度は拡充する予定です。

第2回：テーマ「みらいに まっすぐ さあ今から かけだそう からはじめよう！ ～社会的自立を目指したこれからの不登校対策について～」(R3. 8. 18)

- 2 不登校対策のための別室において子どもたちと学校をつなげた好事例を、不登校対策のコーディネーターとなる教員へ広げる場を作る必要がある。
- 不登校実践研究の取組について、その運営ノウハウの普及や、これから独自に別室設置を試みる市町村教育委員会・学校を指導主事や別室指導推進員が訪問し、支援を行っています。
- また、「岡山型 長期欠席・不登校対策スタンダード 増補版 ～別室指導、ICTの活用～」を作成し、県内小中学校での別室やICTの活用事例等を紹介するなど、別室を活用した取組の普及を進めることによって、各学校での児童生徒の居場所づくり、絆づくりの一層の充実を図っております。

「不登校対策別室指導実践研究」 4,606千円

第3回：テーマ「豊かな岡山の森林を将来に引き継ぐために」(R3. 10. 13)

- 3 ICT林業のメリットは大きいものの課題もあり、一番大きなものは人材である。便利なものを使うためには教育が必要であり、人材育成から始める必要がある。
- ICTを活用した林業機械の普及に対応するため、令和3年度から県の林業普及指導員に対し、ICT機材の基本的な知識習得のための研修を実施しているところです。

4 木材の選別は1本1本の善し悪しを見て判断していく必要があるが、その目利きができる材木店は必要であり、そういった面も含めて県産材利用してもらえるようにPRしていきたい。

→ 消費者に対し、県産材利用の提案や技術的な助言、指導を行う人材（県産材サポーター）の要請や、PR活動等への支援を引き続き実施し、令和3年度は木材関係団体が取り組むPR活動にも支援しているところです。

「県産材サポーター養成」 880 千円

「PR事業」 1,000 千円

第4回：テーマ「社会のグローバル化を見据えた、自分の夢、将来の展望、将来自分が住みたい街について」（R3.11.15）

5 岡山の魅力がまだまだ知られていない。県内に住む人が魅力を再認識し、また日本全国へ魅力を発信する努力が重要である。

→ 本県の持つ魅力について、様々な広報媒体を用い、また、デジタルマーケティングの手法を取り入れながら、県内だけでなく、首都圏・関西圏を中心に全国へ発信してまいります。

第5回：テーマ「地域を支える産業の振興～産学官連携の取組～」（R4.1.17）

6 企業の中には、産学連携は大学に任せきりにしておけば良いと考えている企業もあるが、企業側で何ができるのかよく考えてほしい。

→ 産学連携に取り組んだことのない企業を対象に、産学連携を円滑に進めるためのポイントや注意点等を周知するセミナーを開催する予定です。

「大学と連携した地域産業振興事業」 356 千円